

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第8回

■ 前回の課題の確認

まず始めに、前回の課題の敷地条件および施主の要望について確認しておきましょう。敷地条件は南側に道路がある変形敷地で、道路と敷地の高低差は 100mm でした。

おもな施主の要望は

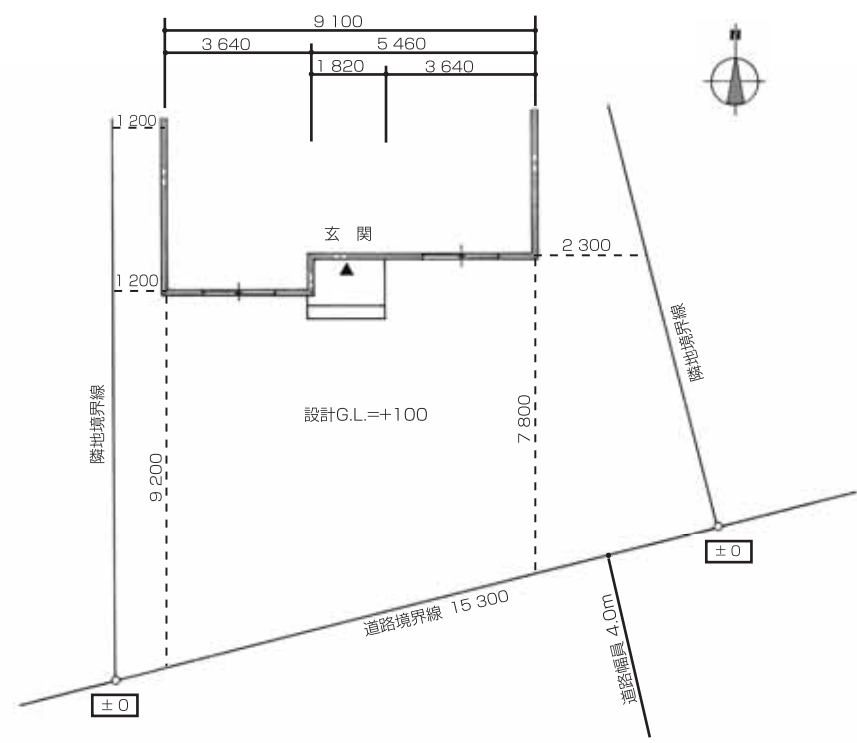
- ・セミオープンスタイル
- ・道路から室内が丸見えにならないよう適度な目隠し
- ・2台分の駐車スペース
- ・変形敷地を考慮したデザイン

などでした。

とくに今回のポイントは変形した敷地を活かした2台駐車プランニングとなります。

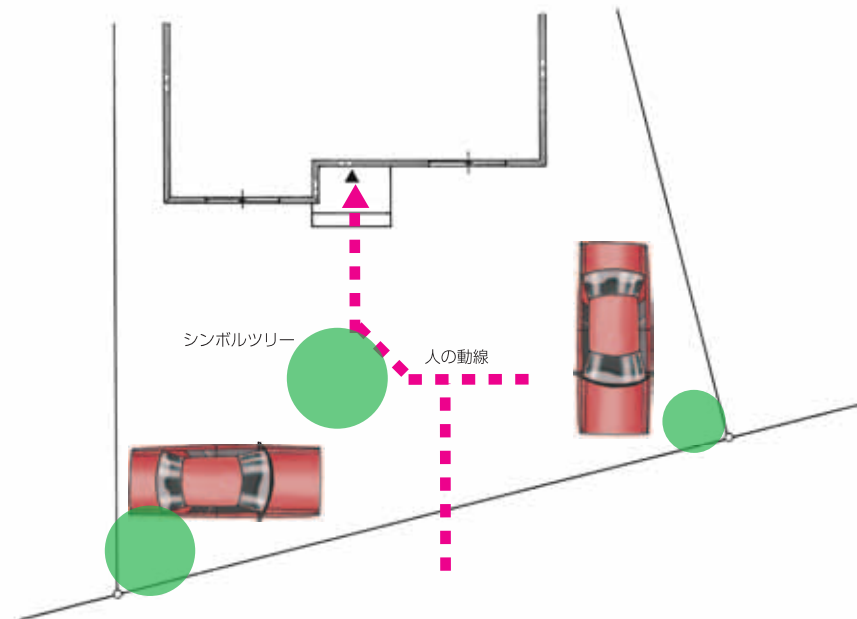
みなさんはどのようなプランでまとめられましたか？

今回も、まずはゾーニング図を使って基本的な考え方や、動線計画を解説していくことにしましょう。



■ ゾーニング

今回は2台の車を分離させ、L型に配置してみます。敷地が変形しているので、それぞれの車は隣地境界や道路と平行に配置せず建物と平行、あるいは垂直にレイアウトしてみましょう。そうすれば各駐車場と境界線の間にスペースが確保でき、そこを積極的に植栽スペースとすることで、緑量豊かなファサードデザインとすることができそうです。



Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

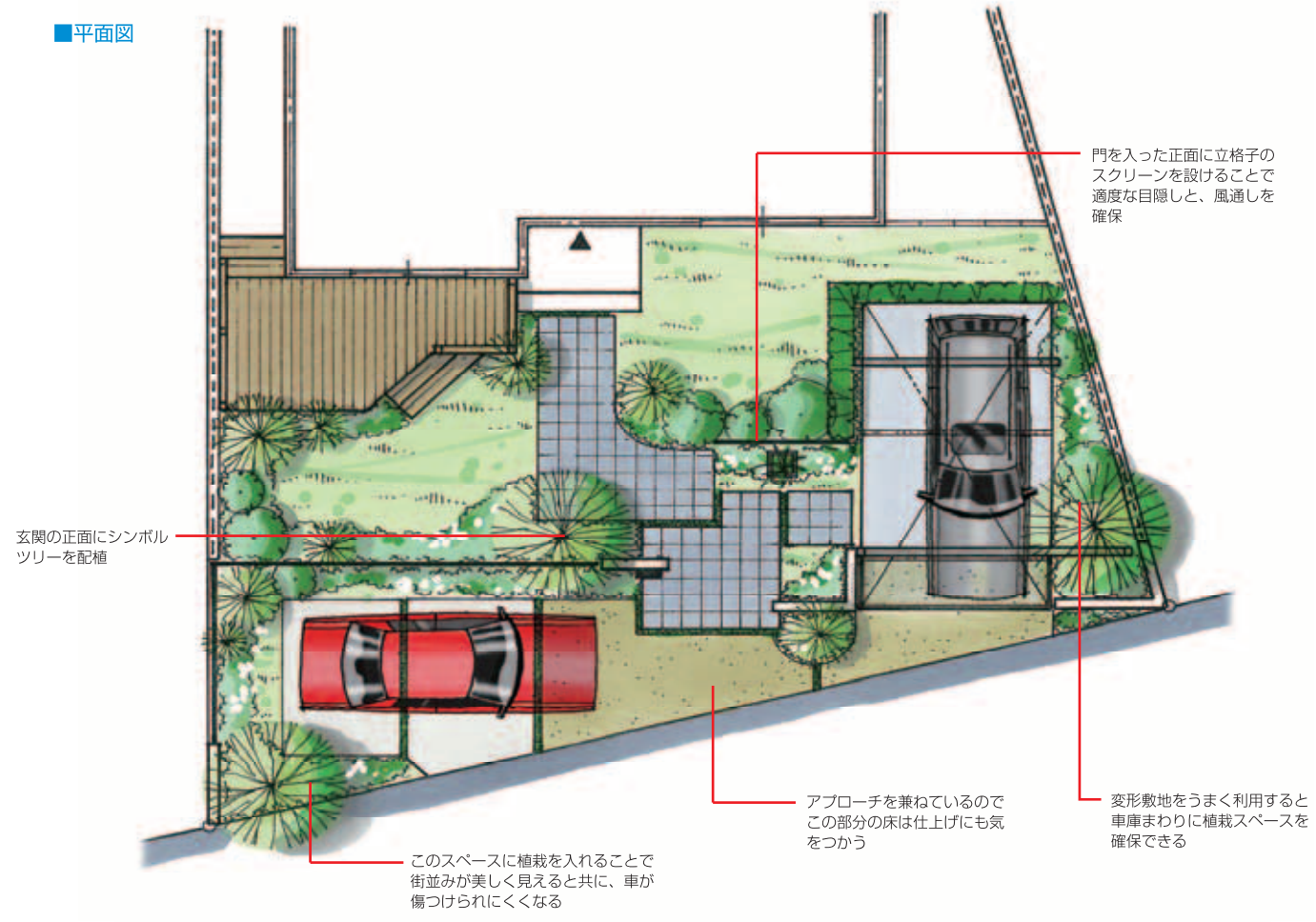
生年月日: 1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア&ガーデンアカデミー東京校校長・
一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、
1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

■ 模範プラン

それでは、ゾーニング図をもとに作成した模範プランをご覧ください。平行駐車と道路の間に植栽スペースを確保し、高木を植えることで街並みの表情が豊かになります。

■ 平面図



■ 立面



■ イメージパース



勿論、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただき、ご自分で考えられたプランと比較して、各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にしてください。